

講義名	自己発見とキャリア開発 A (K11)			授業形態	
担当教員	金 承珠	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1 時限 / 前期 月曜日 2 時限 / 前期 火曜日 1 時限 / 前期 火曜日 2 時限	単位数	8
		履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード	FYE100

主題と概要

流通科学大学では4年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いています。気づきの教育の目的は、自我的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたい自分(夢の種)」を探し、それに応じて本学での4年間の学びをより充実させ、意義あるものにすることです。「自己発見とキャリア開発」は、「気づきの教育」の幹となる必修科目です。大学での「4年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を作成します。

到達目標

最終的な到達目標は「」であるが、そのためには、「」、「」をしっかりと達成していくことが大切です。
6つの基礎能力の必要性に気づき、自分の現状を知り、向上させることができるようになる。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでおり、向上し続けることができるようになる。(6つの基礎能力とは、「学び」「コミュニケーション」「問題解決」「表現」「自己実現」「社会貢献」について、自分自身に気づきながら自分自身を改めて理解できるようになる。
様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「4年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を獲得できるようになる。

提出課題

講義資料に附属のワークシートを作成し、プログラムによっては、ポスターなどを作成します。これらは、直ちに提出する場合、宿題として提出する場合、学生本人が保管して随時教員がチェックする場合など、様々です。いずれにしても、皆さんの質量な成果物となります。成果物は後のプログラムで使う場合があります。講義資料は最後まで絶対になくさないように十分に注意してください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出した課題については、全体会員により講評、解説が行われます。また、教員からのフィードバックにより個別に公表が行われる場合もあります。ポスター作成では、自クラスだけでなく、他クラスと相互発表を行なうことで理解を深めます。

評価の基準

各プログラムへの取り組み姿勢と上記の一の到達目標が達成されたかどうかによって成績評価します。
取り組み姿勢においては出席した回数で、取り組み回数と成績評価の関係で総合的に評価されます。
到達目標が達成されたかどうかは、ワークシートやポスターなどの成果物で判断することになりますが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっています。ワークシート類には自らの気づきを十分反映させ、他者が見て分かる充実したものにして下さい。
選別：欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になります。不合格になります。欠席が1/4より少なくとも、取り組み姿勢が不適切であつても、成績は及第格になります。欠席になってしまった場合は、各回の宿題と課題を提出する旨を提出して下さい。
選別も欠席をはじめでなく取り組み姿勢が自分自身が思っているほどでない場合は、ワークシートやグループの他のメンバーに提出をかけることになります。ご理解ください。
結局のところ、選別欠席をせずにまじめに出席して、積極的に各プログラムに取り組むことが、到達目標の達成に結び付き、高い評価を得ることにつながります。

履修にあたっての注意・助言他

この科目は必修科目であり、対面での授業で実施します。あらかじめ割り付けられたクラスで受講して下さい。また受講に当たっては次のことに注意してください。
(1)失敗を恐れない：この科目では様々な体験をするのが得意なことも苦手なこともあります。失敗してもかまわないでの、積極的に取り組んでほしい。失敗から成長が生まれる。
(2)周囲への配慮を忘れない：共に学ぶ仲間を尊重しよう。そして、他の人の取り組みをからかうばかりにしたり、私語や迷惑をかける行為はやめよう。また、フィールド演習などで外部の人と接し、卒業後企業でお仕事をする場合もある。手段から言葉遣い、マナー、態度、社会人としての振る舞いを身につけよう。
(3)選別：全体会員が各自提出する宿題を提出する。ただし、出席回数が少ない場合は、各回の宿題と課題を提出する旨を提出して下さい。
(4)楽しもう：この科目を受講した先輩学生の多くは、「大変だけれどもやってみてよかった」「楽しかった」「力がついた」と言っています。皆さんも、積極的に楽しんでこの科目を受講して下さい。
(5)分からぬことがありますれば、授業中に担当教員に遠慮なく相談すること。

教科書

・使用しない。

参考図書

その他

資料は各プログラムごとに配布します。多数の資料があるので、きちんと整理して保管してください。

授業計画

シラバス作成時点での予定であり、実際の学習計画とは少し異なる可能性があります。クラスミーティング実施時に詳細な計画を配布します。
Stage1 (1) クラスミーティング、(2) コミュニケーションキャンプ、(3、4) チームビルディング
Stage2 (5) 図書館活用講座、個別面談、(6) 建学理念・中内記念館・ダイエー資料館講座、個別面談、(7) キャンバスマナー講座、個別面談、(8) ポートフォリオ講座、個別面談
Stage3 (9) 職の気づき、資格別プログラム講座、(10) コミュニケーション演習、(11) PROGテスト、職の気づき、(12) 職業人との交流、(13) 職業人との交流、(14) 職業人との交流、(15) 公務員面接、基礎学力テスト、(16) コミュニケーション演習、(17) クラス統合プログラム、(18) 職業人との交流、(19) 職の気づき
Stage4 (20～24) フィールド演習～、(25) PROG解説、職の気づき、(26) クラス合同プログラム、(27) グループ面談
Stage5 (28) 行動計画・ポートフォリオ作成、(29) 成果のまとめと発表・今後の課題、(30) 「自己発見とキャリア開発B」・後期に向けて

授業形態(アクティブラーニング)

ア : PBL(課題解決型学習)	イ : 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認の要素を教室で行う授業形態)
ウ : ディスカッション、ディベート	エ : グループワーク
オ : プレゼンテーション	カ : 実習、フィールドワーク
キ : その他(A L D 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

1回の講義について、学則ならびに文部科学省の大学設置基準においては、4時間の自己学習が必要とされています。したがって、この科目は1週間に4回の講義があるので、規則上は1週間に16時間の自己学習が求められています。各学生が各自で行なう予習や復習、振り返りシート、振り返りシートなどは、宿題とされる場合もあります。フィールド演習の取りまとめなど、グループで授業時間外に打ち合わせや作業をする必要が生じます。
ただし、ここで強調しておきたいのは、気づきの教育の目的を達成するには、このような科目の評価に際する予習・復習だけをしておればよいのではないことです。この科目で身に付ける「体験から学ぶ」という態度は、学生生活の様々な場面で生かせるはずです。学生生活のあらゆる場面を「学び・気づき」の場として活用していただくことを、願っています。このような活動も、広い意味での「授業時間外学習」と言えるかも知れません。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考